（別記）

令和８年度訓子府町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

戸当り平均経営面積は、管内の平均を下回る集約経営型であり令和７年では 22.28ha となっている。そういった条件下で、たまねぎ・畑作三品・酪農といった従来からの経営形態を基本としつつ、補完作物としてスイートコーンや豆類等の栽培に取り組んでいる。今後も収益性の高い作目、作型を導入し地域として産地化を図る。

当地域では農業の担い手は一定程度確保されているものの、今後において農業就業者の高齢化及び農業後継者の減少に伴い、農地の流動化が停滞し周辺農地の耕作に支障を及ぼすことが懸念されている。今後、転作地における高収益作物（野菜等）の導入、省力・低コスト化の推進、畑作物の輪作体系を確立するとともに、ＧＡＰの取り組みを普及・推進していくこととする。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

高収益作物の導入にあたっては、需要が増加している野菜の安定生産や、消費者のニーズに対応した多様な品目の作付、高品質で安定した生産による産地ブランド力の向上、地域に適応した品種の選定・普及及び栽培技術の改善、スマート農業等の省力・低コスト化や、収益力の向上による経営の安定化を進める。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本町においては転作が進み、近年の水稲作付はほぼ固定化している。一定程度の水稲作付を維持しながらも、水田転作地の畑地化が令和５年度に大幅に進んでおり、減少していく交付対象面積の中で水田農業の確立が急務である。農業就業者の高齢化及び農業後継者の減少による農地流動化の停滞を防ぐため、農地中間管理機構や農業委員会によるあっせん活動を活用しながら農地集積を図る。なお、畑地化の取組を進めるにあたっては、「地域計画」により描かれた将来像や、担い手の農業経営改善計画など、効率的な土地利用に配慮する。

ブロックローテーションの導入については、米のタンパク質含有率の増加や、排水性・作業効率の低下といった課題が生じることもあるため、現場課題を把握した上で、関係機関・団体と連携し、今後の対応策を検討する。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

北海道農業再生協議会が設定する「生産の目安」を遵守することを基本とする。近年、作付面積は横ばいからやや減少傾向にあるが、もち米団地としての取組を図るとともに契約栽培による安定供給・安定販売体制を構築し、地域の消費者向けに流通しているうるち米の取り組みも継続する。

（２）備蓄米

取組予定なし。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

今後の需要や品種の動向を踏まえ、取組について検討する。

イ　米粉用米

取組予定なし。

ウ　新市場開拓用米

取組予定なし。

エ　WCS 用稲

取組予定なし。

オ　加工用米

生産の目安に基づき、必要に応じて取組を行う。

（４）麦、大豆、飼料作物

・麦（秋小麦・春小麦）

用途別需給バランスを考慮し、実需者が求める良品質小麦の安定生産・安定供給を構築する。一方で、近年小麦が過作傾向となりつつあるため、甜菜、馬鈴しょ、豆類といった小麦以外の輪作構成品目の作付を確保し畑作物の輪作体系を維持する。

・大　豆

麦、てん菜、馬鈴しょの３年輪作から、４年輪作に移行するための作物として、大豆を含む豆類の作付が近年見直されてきている。輪作の構成作物として、収穫機械の導入など国の補助事業を活用しながら振興を図る。

・飼料作物

自給飼料生産の推進を基本に適期収穫体系を確立し、植生改善及び草地更新率向上による高栄養価自給飼料生産を推進する。

（５）そば、なたね

取組予定なし。

（６）地力増進作物（えん麦・えん麦野生種・ライ麦・とうもろこし・イタリアンライグラス・ソルガム・ギニアグラス・スーダングラス・大豆・アカクローバ・クリムソンクローバ・ヘアリーベッチ・シロカラシ・なたね・マリーゴールド・ねぎ・ひまわり・ハゼリソウ）

地力増進作物（緑肥）の作付・すき込みにより、良質な農産物の安定供給、生産コストの低減及び環境負荷の軽減に配慮した合理的な施肥管理・土壌管理を進め、高収益作物等への転換を推進する。なお、推奨作物は、「北海道緑肥作物等栽培利用指針（改訂版）」に位置づけられた作物とする。

（７）高収益作物

・玉　葱

本町の転作作物の中で最も面積が大きい作物であり、安定した生産量を確保するため、地域振興作物の「重点作物」として位置付け、土壌診断に基づく土作り、品種適性・土壌改良等の試験検討を行い、所得の確保を図る。また、低コスト・省力化技術の導入等により、生鮮向けへの安定出荷と合わせて、加工業務向けへの安定的な原料供給体制を整備する。

・スイートコーン

適正な輪作及び施肥管理に努め品質面及び生産性の向上を目指す。

・馬鈴しょ

適正な輪作に努め、異常気象に影響されない良質馬鈴しょの生産基地として消費地から求められる産地を目指す。

（８）その他

・てん菜

輪作の構成作物で近年、作付減少に歯止めがかからないため、地域振興作物の「重点作物」として位置付け、優良品種の導入と栽培技術の高位平準化を推進し、直播栽培面積の拡大に伴い、安定生産に向けた湿害対策等の栽培技術を確立する。

・豆類（小豆・菜豆）

輪作の構成作物として、収穫機械の導入など国の補助事業を活用しながら振興を図る。

５　作物ごとの作付予定面積等　～　８　産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※　農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

別紙

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	54		54		54	
備蓄米	0		0		0	
飼料用米	0		0		0	
米粉用米	0		0		0	
新市場開拓用米	0		0		0	
WCS用稲	0		0		0	
加工用米	3		3		3	
麦	1		0		0	
大豆	0		0		0	
飼料作物	27		1		1	
・牧草	0		0		0	
・デントコーン	27		1		1	
・子実用とうもろこし	0		0		0	
そば	0		0		0	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	3		2		2	
高収益作物	1		1		1	
・野菜	1		1		1	
・花き・花木	0		0		0	
・果樹	0		0		0	
・その他の高収益作物	0		0		0	
その他	1		1		1	
・てん菜	0		0		0	
・豆類（小豆・菜豆）	1		1		1	
畑地化	27		1		1	

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	てん菜 豆類（大豆・黒大豆除く） 馬鈴しょ（でん粉原料用専用種除く）	地域振興作物支援 （畑作物）	てん菜の単収 豆類（小豆等）の単収 馬鈴しょの単収 作付面積	（７年度） ６，０４５kg/10a ２００kg/10a ３，４３９kg/10a １ha	（８年度） ７，１００kg/10a ２６０kg/10a ２，８００kg/10a ６ha
2	てん菜 豆類（大豆・黒大豆除く） 馬鈴しょ（でん粉原料用専用種除く）	ＧＡＰ導入支援 （畑作物）	作付面積 地域内販売額 （畑作物）	（７年度） １ha 185,373円/10a	（８年度） ６ha 193,750円/10a
3	てん菜	湿害対策支援 （てん菜）	てん菜の単収 作付面積	（７年度） ６，０４５kg/10a － ha	（８年度） ７，１００kg/10a ４ha
4	てん菜	直播栽培支援 （てん菜）	直播てん菜の単収 作付面積 直播てん菜取組面積	（７年度） ５，９００kg/10a － ha － ha	（８年度） ６，７００kg/10a ４ha ４ha
5	てん菜	輪作体系確立支援 （てん菜）	てん菜の単収 作付面積 輪作てん菜取組面積	（７年度） ６，０４５kg/10a １ ha － ha	（８年度） ７，１００kg/10a ４ha ２ha
6	馬鈴しょ（でん粉原料用専用種除く）	輪作体系確立支援 （馬鈴しょ）	馬鈴しょの単収 作付面積 輪作馬鈴しょ取組面積	（７年度） ３，４３９kg/10a －ha －ha	（８年度） ２，８００kg/10a ２ha ２ha
7	豆類（大豆・黒大豆除く）	輪作体系確立支援 （豆類）	豆類（小豆等）の単収 作付面積 輪作豆類取組面積	（７年度） ２００kg/10a １ha － ha	（８年度） ２６０kg/10a ４ha ２ha
8	野菜・花き・薬草等	地域振興作物支援 （野菜等）	玉葱の単収 スイートコーンの単収 メロンの単収 ほうれん草の単収 かぼちゃの単収 作付面積	（７年度） ４，３６６kg/10a １，４６１kg/10a １，７５１kg/10a １，４３４kg/10a １，８００kg/10a １ha	（８年度） ６，０００kg/10a １，７００kg/10a ２，３００kg/10a １，８００kg/10a ４００kg/10a ８ha
9	野菜・花き・薬草等	ＧＡＰ導入支援 （野菜等）	作付面積 地域内販売額 （野菜等）	（７年度） １ha 624,094円/10a	（８年度） ８ha 588,785円/10a
10	玉葱	減農薬栽培支援 （玉葱）	作付面積 減農薬玉葱取組面積 精算単価	（７年度） １ha １ha 慣行栽培品対比113%	（８年度） ４ha １ha 慣行栽培品対比120%
11	麦・大豆・飼料作物等	土づくり支援	てん菜の単収 馬鈴しょの単収 玉葱の単収 作付面積	（７年度） ６，０４５kg/10a ３，４３９kg/10a ４，３６６kg/10a １ha	（８年度） ７，１００kg/10a ２，８００kg/10a ６，０００kg/10a ８ha
12	地力増進作物（緑肥）	地力増進作物に対する支援	取組面積	（７年度） ２ha	（８年度） ５ha

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：北海道

協議会名：訓子府町農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	地域振興作物支援（畑作物）	1	6,600	てん菜、豆類（大豆・黒大豆除く）、馬鈴薯（でん粉原料用専用種除く）	適期防除の実施
2	GAP導入支援（畑作物）	1	19,900	てん菜、豆類（大豆・黒大豆除く）、馬鈴薯（でん粉原料用専用種除く）	基礎GAPの実施等
3	湿害対策支援（てん菜）	1	4,500	てん菜	湿害対策（心土破砕・明暗渠の施工等）の実施
4	直播栽培支援（てん菜）	1	2,000	てん菜	直播栽培の実施
5	輪作体系確立支援（てん菜）	1	6,000	てん菜	輪作の実施（3年輪作）
6	輪作体系確立支援（馬鈴しょ）	1	4,000	馬鈴しょ（でん粉原料用専用種除く）	輪作の実施（3年輪作）
7	輪作体系確立支援（豆類）	1	2,000	豆類（大豆・黒大豆除く）	輪作の実施（3年輪作）
8	地域振興作物支援（野菜等）	1	13,300	野菜・花き・薬草等	適期防除の実施
9	GAP導入支援（野菜等）	1	13,300	野菜・花き・薬草等	基礎GAPの実施等
10	減農薬栽培支援（玉葱）	1	4,000	玉葱	減農薬栽培の実施
11	土づくり支援	1	5,700	麦・大豆・飼料作物等	堆肥の投入
12	地力増進作物に対する支援	1	20,000	地力増進作物（緑肥）	地力増進作物の作付・すき込み

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。
　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。